

製品安全データシート(MSDS)

製造者情報

会社名 ジェフコム株式会社
住所 〒579-8014 東大阪市中石切町 3-13-16
担当部門 品質管理課 担当者 前澤 充
電話番号 072-961-9843 FAX番号 072-961-9845

作成 2008年5月12日
改訂 2008年5月23日

整理番号 MSDS 08-001
製品名 ウェットパウダー (DSP-500 , DSP-3500)

主な用途 ケーブルの通線用

[組成、成分情報]

単一、混合物の区別 : 単一製品
化学名 : パラフィンワックス
成分及び含有量 : 炭化水素 100%
主化学式または構造式 : C_nH_{2n+2}
管報公示整理番号 : 化審法 8-430
: 安衛法 施行前に化審法で既存
CAS No. : 8002-74-2
国連分類 : 該当しない
P R T R : 該当物質なし
安衛法通知対象物 : 固形パラフィンに該当 100%

[危険有害性の要約]

危険性 : 可燃性である(消防法上の指定可燃物、可燃性固体類に該当)。
有害性 : A C G I Hでは溶融時の煙霧、蒸気が規制されている。
環境影響 : 生分解性良好。

[応急措置]

固体で取り扱う場合には特に問題はないが、溶融時の取り扱いには火傷などの傷害を生じる可能性があるため注意を要する。

(溶融時の場合)

目に入った場合 : 大量の水で洗眼し医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合 : その部分を水に浸し冷やす(氷水及び氷パックをあてがうのも有効である)。しかし、身体の10%以上を火傷した場合はショックを与えることがあるため、前述の冷却処置を行わず、速やかに医師の診断を受ける。

ワックスの煙霧、蒸気を吸入した場合 : 気分が悪くなった場合は、直ちに清浄な空気を吸入させて安静にする。もし呼吸が止まっていた場合は衣類を緩め、呼吸器気道を確認した上で、人工呼吸(可能であれば酸素吸入)を行ない、直ちに医師の診断を受ける。又、目が痛くなった場合は、清浄な水で洗眼する。必要に応じて医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合 : 無理に吐かせない。但し喉に詰まり呼吸困難に陥った場合は、早急に吐かせ医師の判断を受ける。

(固体の場合)

目に入った場合 : 塵が入った場合と同様、こすらず大量の水で洗眼し、症状に応じて医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 : 特に問題はないが、皮膚アレルギー性の作業者が皮膚に異常を認めた場合は医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合 : 溶融時の場合と同様の処置を行なう。

[火災時の措置]

消火方法 : ①火元への燃焼源を断つ。
②初期火災には粉末、炭酸ガス消火器が有効である。
③大規模火災の場合は、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。注水は火災を拡大し危険な場合がある。
④周囲の設備は、散水して冷却する。
⑤消火作業の場合は、風上から行ない、発生するガスや燃焼分解物を吸入しない様に、必ず保護具を着用する。
⑥火災発生場所の周辺には、関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火剤 : 土、砂、泡、ドライケミカル、炭酸ガス。
棒状注水は一層火災範囲を拡大させる恐れがあるため、厳禁。

[漏出時の措置]

(溶融時)

- ①すべての着火源を速やかに取り除き、漏洩個所の漏れを止める。
- ②危険地域の周囲にロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
- ③消火機材を準備し、作業は保護具を着用する。
- ④漏洩時は水、土、砂等で冷却固化した後、空容器に回収する。
その後完全にウエス等で拭き取る。
- ⑤下水道、河川、海洋等に流出した場合は、冷却固化後回収する。
二次災害、環境汚染を起こさない。
- ⑥室内で流出した場合は、窓、扉を開け十分に換気を行なう。

[取り扱い及び保管上の注意]

- 取り扱い上 ①3,000kg以上の量を貯蔵又は取り扱う場合には市町村条例で定められた基準を満足すること。
 ②炎、火花又は高温体及び強酸化剤との接近を避ける。
 ③皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は保護具を着用する。
 特に、溶融時は火傷しない様に注意する。
 ④ワックスが残存している機械設備などを修理する場合は、安全な場所において、ワックスを除去した後に行なう。
 ⑤屋内作業場で溶融ワックスを取り扱う際は、ガスが発生するので、発生源を密閉、または全体あるいは局所排気装置を設ける。
 ⑥容器を転倒させたり、衝撃を与えるなどの粗暴な取り扱いをしない。
 ⑦溶融時、酸化劣化をさせない為高温で長時間加熱しないこと。
 又、銅、銅合金との接触は避ける。
- 保管上 ①固体で保管する場合、直射日光を避け、冷暗所で保管する。
 ②酸化性物質及び有機過酸化物と同一の場所に保管しない。
- 貯蔵 : 溶融状態で貯蔵する場合は、高温過熱にならないよう注意する。

[暴露防止及び保護措置]

管理濃度:設定されていない。

許容濃度:日本産業衛生学会(99年度版) :設定されていない。

ACGIH (91年度版): 2mg/m³(TWA) (ワックスの煙霧、蒸気として)
 6mg/m³(STEL) (ワックスの煙霧、蒸気として)
 5mg/m³(TWA) (オイルミストとして)
 10mg/m³(STEL) (オイルミストとして)

設備対策 : 換気設備を設置した場所で行なう。又、取り扱い場所の近辺に洗眼及び身体洗浄の為の設備を設ける。

保護具 : 状況に応じて呼吸用保護具(防塵マスク)、保護具(ゴーグル型眼鏡、保護手袋、保護着)を着用すること。以上の保護具は耐油性の製品であることが望ましい。

[物理的及び化学的性質]

外観 : 白色の固体
 臭気 : 無臭
 分解点・融点 : 別表参照
 密度 : 別表参照
 溶解性 : 水に不溶

融点 (滴点) °C	粘度(mPa·s) at 120°C	引火点 (COC) °C	固形パラフィン含有率 (%)
113.5	17.0	314	100

注) 性状はいずれも代表値である。

[安定性及び反応性]

引火点	: 別表参照
発火点	: データなし
爆発限界 上限, 下限	: データなし
酸化性	: なし
自己反応性・爆発性	: なし
安定性	: 安定
反応性	: 強酸化剤との接触を避ける。
その他	: 水分が混入すると熔融時、100℃以上で突沸することがある。

[有害性情報]

皮膚腐食性	: データなし
刺激性	: 長期間皮膚に接触すると皮膚を刺激することがある。眼に入ると眼を刺激することがある。
感作性	: データなし
急性毒性 (50%致死量等を含む)	: 経口 ラット LD ₅₀ 5 g/kg 以上
亜急性毒性	: データなし
慢性毒性	: データなし
ガン原性	: データなし
変異性原性	: データなし
生殖毒性	: データなし
催奇形性	: データなし
その他 (水を反応して有害物質を発生する等を含む)	: なし

[環境影響情報]

分解性	: 微生物による分解性あり。
蓄積性	: データなし。
魚毒性	: データなし。

[廃棄上の注意]

- ① 投棄禁止
- ② 大量の場合、事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは地方公共団体に委託し処理する。
- ③ 少量の場合においても、焼却炉で焼却する。

[輸送上の注意]

- ① 陸上輸送
消防法 : 危険物に該当しない。指定可燃物・可燃性固体類なので火気注意。
液状輸送の場合、高温にならない様に注意する。又、固体輸送の場合、直射日光を受け高温になると溶け出す恐れがある。
 - ② 海上輸送及び航空輸送 : 船舶安全法、航空法について非危険物。
-

[適用法令]

- ① 化審法 : 既存化学物質名簿へ収載。
- ② 安衛法 : 通知対象物「固形パラフィン」に該当。
- ③ 消防法 : 消防法には指定可燃物の可燃性固体類をして規定され、3,000kg以上の貯蔵及び取り扱いについての技術上の基準は市町村条例で規定されている。
- ④ 水質汚濁防止法 : 油分排出規制 (5mg/1許容濃度)
- ⑤ 海洋汚染防止法 : 油排出規制 (原則禁止)
- ⑥ 下水道法 : 鉱油類排出規制 (5mg/1許容濃度)
- ⑦ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 産業廃棄物規制 (拡散、流出の禁止)

[その他の情報]

- ①改正建築基準法(H14/7/12 施行)で規制された化学物質(クロルピリホス及びホルムアルデヒド)は当製品には一切含まれていません。
- ②本データシートは当該製品の一般的取扱いに際しての安全な取扱い方法について最新の情報を集めた物ですが万全ではありません。新たな情報を入手した場合は追加又は訂正をすることがあります。当該製品を他の製品と混合したり、特殊な条件で使用したりするときは、安全性の評価を行って下さい。本データシートは保証値ではありません。

(引用文献)

- 1) P. Shubik et al : Toxicol Appl, Pharmacol., Suppl, 4, 62 (1962)
 - 2) A. O. Hanstveit : TNO Report, Netherland orga, for Appl, Resear (1990)
 - 3) 化学工業日報社 : 製品安全データシート (MSDS) 作成実務必携 (1998)
 - 4) 日本規格協会 : 化学物質等安全データシート (MSDS) ; JIS Z 7250 (2000)
-